2024.9.4　2 歳 3 歳クラス 「軽量粘土で遊ぶ」 軽量粘土、絵の巣、廃材、他

～大人の正解ではなく、自分の感性にアクセスしていく時間～

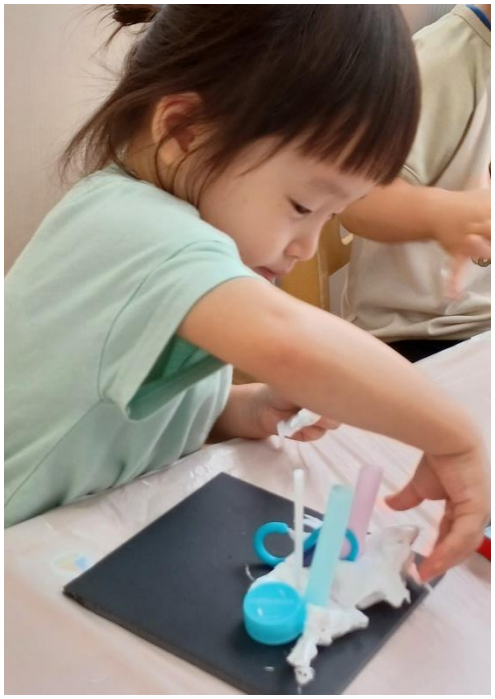
手触りがよく、伸びる粘土と廃材を置きました。何をするかの指示はなく、
粘土を伸ばし、廃材と組み合わせる事を見せただけで、始めました。

子ども達はすぐに、粘土を伸ばし、ちぎり、廃材に詰め始めます。
クリップを粘土で包み、掘り出します。キャップに粘土を詰め、ほじくります。
ストローに粘土を詰め、棒を使って押し出しています。
何かが起きる度に、嬉しそうに「みて！」と、声を上げています。
黙々と粘土にストローを刺し、自分の感覚で造形する子もいます。
粘土よりも廃材に興味を持ち、1 つひとつ形を確かめている子もいます。
途中で絵の具を出すと、青に赤を入れたらどうなるか、この色は黒？グレー？
色の実験が始まります。
粘土を絵の具に浸すと、柔らかくなり感触が変化します。それを手や足で
感じ、うれしそうです。粘土をこね続けて「たのしい」とつぶやいています。

子ども達は次第に、それぞれの興味ある事に没頭していきました。
大人が言葉少なく見守ることで、自分なりに感じ、考えています。
見守りながら子ども達の発信を受け止め、応えていく事で、
安心して遊び込んでいけたのでしょう。

こうするとどうなるんだろう？自分なりに問いを立て、実験し確かめています。
「こんな〇〇になった！」と何かを発見しています。
教えられるより、自分で発見する喜びは、大きいはずです。

変化し続ける粘土や色で探求し、確かめ、発見し、造り、想像し、見立てる。
たくさん心を動かして遊ぶ表情は、生き生きとしていました。

作品を作るというよりも、自分の興味あることで遊びつくした痕跡が残りました。
大人が用意した正解ではなく、自分の感性にアクセスする時間だからこそ
その痕跡に、一人ひとりの個性が表現されています。

テーマを決め、子ども達はどう遊ぶかな～とワクワクして準備し、
やり方遊び方は子ども達にお任せして見守る。
想定を超えた事や彼らが発見する事を、一緒におもしろがれたら、
大人も子どもも楽しいだろうと思います。